

市民消防団地域分団員スタッフ派遣 ～地域の防災拠点を目指して～

「地域に開かれた、地域に愛される、地域に信頼される」施設づくりを理念に掲げ、その理念のもと、地域の方々に「安心」を提供することは、当施設の役割のひとつと捉え、「地域の防災拠点」を目指した活動を開始した。活動の一例として、今年度から地域消防団の参加、協力を目的に職員の派遣を行っている。

社会福祉法人 **こうほうえん**

〒683-0021 鳥取県米子市石井1238

TEL：0859-26-5566 / FAX：0859-26-5570 / E-Mail：fukuda@kphpen.jp

【法人の概要】

法人設立年：昭和61年6月

経営施設、事業（数）：10施設、82事業

経営施設、事業（種別）：

特養…7 / 老健…3 / ケアハウス…5 / 生活支援ハウス…4 / 高優賃…1 / 保育所…4 / リハビリ病院…1 / デイサービス…12 / ヘルパー…4 / 訪問入浴…2 / 訪問看護…3 / 訪問リハ…1 / デイケア…4 / ショートステイ…7 / 特定施設4… / 福祉用具…1 / グループホーム…7

【法人の理念・経営方針】

<理念>

わたくしたちは
地域に開かれた
地域に愛される
地域に信頼される
こうほうえんを目指します

<方針>

わたくしたちは
サービス業のプロとして
正しい情報を伝達し
自分が受けたい保健・医療・福祉サービスの
提供・改善に努めます

実施施設の概要

施設名：なんぶ幸朋苑

施設種別：特養、老健、ケアハウス、
特定施設、生活支援ハウス、
グループホーム、ケアプラ
ンセンター、デイサービス、
デイケア、ヘルパー、訪問
看護、小規模多機能施設

活動開始年：平成19年4月

活動の頻度・時間：月4回程度・2～3時間、
および随時

活動の対象者：地域住民

活動実施の背景、実施にいたった理由

当法人は、サービス提供を始めて今年で20周年をむかえる。これまで「地域に開かれた、地域に愛される、地域に信頼される」施設づくりを理念に掲げ、介護・リハビリテーション・保育の分野で地域の皆さまの生活をバックアップさせていただいていた。そして、2005年からスタートした日本経営品質賞（JQA）への取り組みを基軸として、あらためて地域における施設の存在意味を追求している。

そこに施設がある、「こうほうえん」があることで地域の皆さまに“安心”を提供することは、われわれの役割のひとつと捉え、なんぶ幸朋苑では“地域の防災拠点”を目指した活動を開始した。活動の一例として、今年度から地域消防団の参加、協力を目的に施設からスタッフの派遣を行っている。介護・リハビリテーション等の専門職者としての業務にとらわれず、地域において施設のあり方を追求する取り組みとしてここにその活動経過を報告する。

実施内容

米子市においては、地区ごとの市民消防団が結成されており、なんぶ幸朋苑の属する地域においても、市民消防団の分団が自衛消防活動を行っている。まず分団長とともに地域の防災活動に対する施設の参加および協力方法を協議した。当該地域は兼業農家が多く平日の日中、地域内には女性、子ども、高齢者が多く、男性（分団員）は仕事で不在となる家庭が多い、特に平日の日中におきた火災に対しては初動期対応が困難であるという問題を抱えていた。そこで、地域住民とは逆に日中は当該地域内にたくさんの人手がある、なんぶ幸朋苑で初動期消防活動のお手伝いがあったら、地域の不安を解消し安心して暮らせる地域づくりの一端を担えんと考えた。市民消防団は米子市が管理しており、一地区の分団員定数が定められていた。平日の日中を想定した消防車の出動に必要な人数から、3名のスタッフを固定メンバーとして分団員とすることになった。スタッフ3名を選出するにあたっては、健康および体力面はさることながら、休日でも出動が可能となるよう施設近隣スタ

スタッフとした。分団員活動の主なメニューは、①消防ポンプ操法大会（実際の消火活動を安全に速く行えるようその正確さを競う大会）に向けた練習、②消防車点検、③救急救命訓練、④消防車機関員免許取得などである。この活動により、分団員となったスタッフが地域の防災活動へのパイプ役となり、地域の防災拠点への第一歩が踏み出せたと考える。

活動効果

今回、なんぶ幸朋苑から地域消防団分団にメンバーとして参加しているスタッフの平均年齢は34歳と地元分団員のなかでは若く、参加してまだ日は浅いものの、既に消防ポンプ操法大会の出場メンバーとして依頼を受けている。また、積極的に消防車機関員免許取得を求められるなど、地域の施設への期待が感じられている。

さいわいにも現在までのところ、実際の火災に出動する機会はないが、地域で火災が発生した場合、分団員として固定したスタッフの携帯電話にメールで情報が受信するようアドレス登録してある。

スタッフは、これまでの訓練に参加して、実際の火災において主導的に自信と責任を持って動けるまでには2～3年は必要であろうと話している。

彼らは、地域住民でなくても、施設の代表としてこの地域の安全を守るという意識で訓練に参加している。この活動を通して、施設における防災リーダーの育成にもつながることが期待される。

今後の課題

この固定した3名の分団員スタッフをパイプとして、施設全体で消防団活動に参加していくことを目標にしている。そのためには、この3名以外のスタッフ全員が地域の消防団活動を理解し、部署や職種をこえた協力体制をシステム化することが必要であろう。今回は、施設が地域の防災拠点となるべく、その足がかりとして地域消防団活動への参加経緯を報告した。

今後は、なんぶ幸朋苑含め他の施設群とともに法人全体で、米子市、境港市、鳥取市および東京都北区において、地震や水害等といった災害時に施設が地域で果たす役割をより明確にし

ていこうと考えている。地域のみなさまが、そこに「こうほうえん」があるから安心して暮らせる、と言っただけの環境づくりがわれわれの今後の課題である。

